

## 狭山の元気 発見

初戦は8月28日(土)

第3試合 18時プレイボール!

# 躍

いきいき狭山人  
ひと

## 必死に白球を追って 感動を与えられるような試合に

5年ぶりに都市対抗野球大会へ出場するホンダ硬式野球部。和光市から移転して3年、南関東大会を勝ち抜き、狭山市の名を掲げて東京ドームで戦うのは今回が初めてです。今は8月27日から始まる大会での勝利に向けて、34名の監督・選手とスタッフが一丸となり、さらなる戦力強化を図っています。

都市対抗は、社会人野球の代表的な全国大会で、選手たちにとって東京ドームは高校球児が甲子園を目指すようなもの。また、文字どおり都市の代表として、チームの本拠地となる都市名で出場するのも特徴です。近年、野球を問わず企業スポーツを取り巻く環境が大変厳しい中、廃部や休部が余儀なくされるチームも増えています。そのような状況で活動を存続させるには、地域の支えが不可欠です。それに応えるためにも、野球部ができる一番の地域貢献が、この大会で

戦い、勝利することなのです。今年は、一言で表すと「若いチーム。圧倒的な強さではなく、一球を追う必死さが伝わるプレーが誇りです。そして、5年ぶりの出場を果たすまでには、乗り越えてきた壁もありました。自信に満ちて臨んだ昨年の予選結果は逆転負け。それまでは勝てたのに、敗因を探る監督は、予想しなかった選手の心を、そのとき初めて知ることになります。試合中、「都市対抗出場」のプレッシャーが重くのしかかり、緊張して平常の精神状態を保てなかった選手の心。自分たちの野球が全くできませんでした。それを克服し、プレッシャーに勝る自信と一心不乱に球を追う精神力を培うため、選手たちはさらに厳しい練習に耐えてきました。その積み重ねが、一球に対する厳しさと一人も気を抜くことが許されない雰囲気

気を備えたチームに成長させました。そして、念願の都市対抗に決まった瞬間の感激が、言葉にできないほど大きかったのは言うまでもありません。

「ドームでは、選手たちに伸びびと戦ってもらいたい。そして、一つでも多く勝って、狭山市の名前を全国に広げたい」と語る宇田川監督。大会中の東京ドームはグラウンド・ベンチ・応援席が熱い一体感に包まれます。その一体感を醸し出し、勝利をつかむためには、市民皆さんの応援が必要です。それが何より選手たちを元気づけ、戦う活力へとつながります。狭山のチームとして戦う狭山ホンダに、大きな声援を送ってください。

走者が本塁<sup>かえ</sup>に還りベンチが湧きます



念願の都市対抗へ！歓喜にあふれ監督を肩上げる選手たち

### 狭山ホンダ

(第75回都市対抗野球大会出場)

ユニフォームの右肩には狭山市章  
市の応援を背に精一杯プレーすることで  
狭山をPRし、地域に貢献したい



# オピニオン 声

皆さんの「声」をお寄せください。

## 感性を豊かに育てる本の世界 夏休みに読書をしてみませんか

私は、30年ほど前から絵本を中心に、乳幼児から小学2年生くらいの子どもの対象にした読み聞かせなどを行っています。「子どもと本をつなぐ活動」と、これまで続けて思うのは、保護者の皆さんにも、本を読み聞かせる時間を少しでも作ってもらえたら、ということです。まだ文字や言葉が分からない小さな子どもでも、絵を読み、頭の中で物語を思い描いています。そのような経験の積み重ねは、心の豊かさを育てることにつながるのではないのでしょうか。これは成長の過程でとても大切なことですし、子どもが「本の世界」を知るきっかけにもなります。さらに、本はその行間からもさまざまなイメージを広げることが出来ます。物語の主人公になって冒険したり、知らない世界に足を踏み入れたり、そんな疑似体験をし、楽しい気分になったり、ときには涙を流すこともあるでしょう。本がもたらしてくれた感動に、心を打たれた経験

がある人も多いはず。読書の利点は、言葉や知識が蓄積できるだけでなく、感性を磨いて豊かにすることにあるのではないのでしょうか。

今、学校は夏休み。読書感想文を書かなくてはいけない小中学生も多いでしょう。きっかけが宿題で、あまり気が進まなくても、「読書」で必ず自分の世界を広げることが出来ます。ぜひ、お子さんと一緒に、この夏休みに親子で子どもの本の世界を楽しんでみてください。本が与えてくれるもの：それは形になって表れなくても、確実に心に積み重なっていくものだと私は思います。

古賀清子さん(中央在住)

### 市の考え方

貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。図書館では、子どもと本を結ぶという視点で、「ちびぞうクラブ」や狭山市地域文庫連絡会などのお話を毎月行っています。さらに、小学生向けにおすすめの本を紹介する「よむぞうタイムズ」や乳幼児に読んであげたい絵本リストの発行など、さまざまな活動を通じて「本の世界」を広げるお手伝いができるよう努力していきます。

担当：中央図書館

## 好きな言葉 仲間

人生でとても大切なものだから



Atcharaphan Nakamura  
アチャラパン・ナカムラ  
(山王中学校勤務)

- タイ出身
- 狭山市のALTとして勤務して3年
- 趣味はスキューバダイビングと旅行

## A ssistant L anguage T eacher

I'm a world traveler. It was before my first birthday that I kicked off my first journey with my diplomatic parent. And I keep traveling ever since. From the bustling souks in Morocco to the wilderness of Alaska or the diving sites in the Caribbean or Indian oceans, every single trip means a lot to me. Not only that it enriches my life and nurtures my mind but it gives me a chance to meet many interesting people who are to become my lifelong friends. When I came here, people asked me about the beaches, where to shop for an excellent Thai silk or to find ticket for kick boxing. Now I'm telling them about how superior silk is made or the history of kick boxing. I think Japanese are becoming more cultured-minded travelers. I hope this summer you will explore the world and discover your NEW experiences and FRIENDS.

私は世界中を旅しています。最初は、外交官の両親と1歳になる前に行った旅でした。それから旅を続けています。モロッコのにぎやかな市場からアラスカの野生、カリブ海、インド洋のダイビングサイトまで、旅は私にとって多くの意味があります。人生を豊かにし、心を育てるだけでなく、多くの人と出会い、一生の友だちを作る好機です。タイから来日した当時、私は、美しい絹が買える店を尋ねられたり、キックボクシングのチケットを頼まれたりしましたが、今ではどのように優れた絹が作られるかや、キックボクシングの歴史を話しています。私は、日本人が教養のある文化的な旅行者になりつつあると思います。この夏、皆さんが世界を探検し、新しい体験や友だちとの出会いがあるよう願っています。

(英文の要約)